

川崎市教育委員会賞

司書になってやりたいこと

栗木台小学校 6年生 西岡 晴奏

私の将来の夢は、司書になることです。

なぜなら小さいときから本が好きで、いつか本に関わる仕事がしたいと思っていました。本に関わるというだけではなくて人とも関わることができるのは司書だけだと思います。私の学校には小さいけれど図書室があります。私はいつもいる司書さんが好きでもあり、あこがれの人です。司書さんは本のことをよく知っていて私に時々オススメの本を紹介してくれます。今まではただ本が好きだから司書になりたいと思っていましたが、6年生になり図書委員として関わるようになると司書さんと会う機会が増え、司書になりたいという思いが強くなり、今まで以上に司書になることにあこがれました。

先日、母の働いているお年寄りの施設にボランティアとして行きました。施設には本があるコーナーがありました。それを見てこの本を読み終えてしまったらつまらないのかなと思いました。私が本当に司書になったら、ただ図書館で仕事をするだけではなくて、お年寄りの施設に本を提供したいなと思いました。なぜならボランティアとして行った時、元気で何でも一人でできる人もいるけれど、動けなくて車椅子の人もいることに気付いたからです。

「外出できる人もいるけどずっと施設にいる人もいるから、その人たちはつまらないのかもね。」と母が言っていました。自分に置きかえるとずっと家の中にいてつまらなくてつまらなくて、たいくつだと思います。なのでお年寄りが喜んで読んでくれそうな本を選んで、施設に持って行き、1ヶ月ごとに交かんすれば読みあきてしまうことがないから良いと思います。ただ選ぶだけではなくて大きい字で書かれている本、写真集、さし絵が多い本などだったら目が悪かったりする人も楽しめると思います。お年寄りが一人一人ちがうように本も一冊一冊ちがうと思うので、読みたい本を聞いて持っていくのも良いと思います。

司書になりたいと思ったのは、本が好きだからというのもありますが、一番はもっと多くの人に本が面白い、好きと思ってほしいからです。人とも関わることができるからこそ、本のみ力を伝えることができます。

今回ボランティアとしてお年寄りの施設へ行き、大人になったら司書として関わりたいと思いました。

私が住んでいるのは、川崎市の中でも長寿の町、麻生区です。日本で一番お年寄りが長く生きている市です。だからこそ、これからもお年寄りがもっと増え続けると思います。なので川崎市の未来について考える必要があると思います。私はこれからの川崎市は全ての人にやさしい町にしたいです。なぜなら、お年寄りが増えていくと思いますが、全ての人に対してはあまりやさしくないと思うので、川崎市は

全ての人にやさしい町にしていきたいです。

このようなことをするためには、将来は司書になって本や人と関わりたいです。